

5 基本構想の構成（案）

- 1 利活用構想の目的と構想策定に至る経緯
- 2 飛鳥宮跡の概要と現状
- 3 周辺地域の現状
- 4 利活用のテーマと基本方針
- 5 利活用基本構想
 - 5-1 遺構保存の方針
 - 5-2 景観保全に関わる方針
 - 5-3 利活用に関わる方針
 - 5-4 遺構表現に関わる方針
- 6 今後の課題

齋宮

さいくう平安の杜の利活用

史跡公園「さいくう平安の杜」は、平安時代の齋宮を体感するだけでなく、復元された空間を活かして様々な利活用が可能です。また、明和町へ申請することで、みなさんもご利用が可能です。



正殿を舞台としたコンサート



平安時代を再現したイベント



西脇殿での講演会・シンポジウム



公園屋外での鷹狩りの実演



西脇殿でのかるた競技会



西脇殿での展覧会

史跡公園「さいくう平安の杜」に関するごあんない

- 《開園時間》 午前9時30分～午後5時（ただし入園は午後4時30分まで） 入園無料
※ 2月～11月は午前9時30分～午後4時（入園は午後3時30分まで）
- 《休園日》 月曜日（祝・休日の場合は翌日休園）と年末年始（12月29日から1月3日まで）
その他、イベント等により、入園を制限する場合があります。
- 《お問い合わせ先》 ・「さいくう平安の杜」の利用 **明和町 齋宮跡・文化観光課**
〒515-0332 三重県多気郡明和町馬之上 945 番地 TEL 0596-52-7126
・齋宮跡・復元建物等に関すること **齋宮歴史博物館**
〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503 番地 TEL 0596-52-3800

史跡公園

さいくう平安の杜 もり



史跡公園「さいくう平安の杜」は、9世紀初め頃（約1,200年前）の最盛期の齋宮のすがたをよみがえらせるために、齋王をささえた役所の中心「齋宮寮庁^{りょうちよう}」を3棟の復元建物や、古代都市齋宮を形作った幅約15mの広大な区画道路を、発掘調査の成果を活かして、現地に実物大で再現したものです。

《「さいくう平安の杜」と復元建物のみどころ》

「さいくう平安の杜」を見学される際のポイントをいくつかご紹介します。



【正殿のヤリガンナ仕上げ】

正殿は、木材の表面を古代の木工道具であるヤリガンナで仕上げているため、表面が少しでこぼこしています。



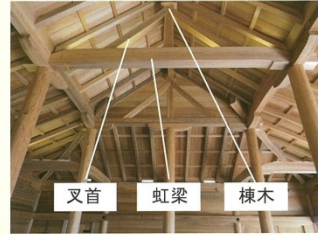
【鬼板と懸魚】

檼棟の先には将棋の駒の形をした鬼板が、破風には棟木を保護したり火災防止のまじないとして剣菱形の懸魚が取付けられています。



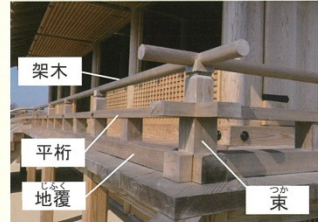
【正殿の階段】

正殿には正面と北側の勾配の急な木口階段と東西の側板階段があります。木口階段には擬宝珠高欄が付きま。



【あらわになった天井】

古代の建物の多くは、天井板を張っていません。そのため、虹梁や叉首、棟木など屋根の構造があらわになっています。



【正殿の高欄】

「寮庁」で最も格の高い正殿の縁には、組高欄がありますが、西脇殿にはありません。架木や平桁には笹金物や唄金物を取り付けられます。



【濡縁の違い】

正殿の濡縁は板を横に取り付ける切目縁、西脇殿は縦に取り付ける樽縁となっています。

「さいくう平安の杜」の復元建物



【正殿】

「寮庁」の中心的な建物で、檜皮葺き、入母屋造の屋根、約1.5mの高床の建物です。広場に面する南側は全て格子の部戸となっています。広場を中心に行われた儀礼・儀式にあたって齋宮寮長官が出座する建物と考えられます。齋宮でただ一人貴族の身分を持つ長官が広場に居並ぶ役人達を見下ろしたことでしょう。

延べ面積 94.5 m²
高さ 7.97m

【西脇殿】
「寮庁」で最も広い建物で、これまでの発掘調査で見つかった建物でも最大級です。檜皮葺きの大きな切妻造の屋根に、広場に向かって突き出した板葺きの庇を持つ広縁が特徴です。屋内での儀式や、儀式などに伴う饗宴に用いられた建物だったと推定しています。



延べ面積 162.0 m²
高さ 7.59m



【東脇殿】

正殿に対して直角の向きに建てられ建物です。今回復元した建物の中で最も柱が太かったことが発掘時に確認されており、柱の根元に横方向の材を使わず、柱の太さと土壁で建物の強度を確保していたと見られることから、土間床で、長辺方向の壁が無い建物であったと考えられます。儀式・儀礼に先立ち、役人達が待機や準備するための建物と考えられます。

延べ面積 89.86 m²
高さ 5.86m